

# ketslide によるプレゼンテーション

## 0. 準備

1. slidesample の例で説明する
2. スライドを作る作業フォルダとその中に fig フォルダを作っておく。  
注) fig は固定名称  
注) slides のフォルダをコピーして、適宜修正した方がよい。

## 1. slidesample.txt にならってデータを作成 / 修正

1. 行の最後は必ず // をつける
2. 各ブロックの引数の区切りは::
3. コマンド
  - タイトル::読み込みファイル名 (::壁紙ファイル)//  
最初のタイトルページ  
注) スライドに置く文字は slide0.cdy で作成  
注) 壁紙をつけるときは、もう 1 つ :: で区切ってファイル名を書く  
注) preamble に追加するとき、::区切りで書き加え、最後に//
  - new (::行下げ)::タイトル (::位置)::読み込みファイル//  
mainslide  
例) new::[10]::最初に::{50}{20}::figure//  
注) 読み込みファイルのサイズ変更するとき  
new::[10]::最初に::{50}{20}::figure,0.8//  
他も同様
  - same (::行下げ)((::位置)::読み込みファイル)//  
sameslide
  - enumerate (::書式)//  
enumerate 環境の始まり
  - itemize //  
itemize 環境の始まり
  - layer (::範囲)//  
layer 環境の始まり
  - item ::文//  
item を追加
  - putnote ::方向と位置::読み込みファイル//  
layer 環境の中に図を入れる

例) `putonote::se{30}{10}::figure//` (input のとき)

例) `putonote::se{30}{10}::include[width=5cm]::figure.pdf//includegraphics`  
のとき)

- `end//`  
`enumerate,itemize,layer` 環境の終わり
- 上記以外//  
そのまま TeX に書き出す .

4. 空白行を入れたいときは, `...//`とする .
5. 必要な図はすべて `fig` に入れる

## 2. `slidesample.cdy` を立ち上げて, `CindyScript/figures` を開く

1. Slidework で作業ディレクトリ (フォルダ名) を設定 (`fig` は不要)  
Ex) `Slidework(gethome()+“slide”);`
2. Fhead にスライドタイトル名を入れる . (通常は `slide0` でよい)
3. Texparent に 1 のファイル名 (`.txt` はつけない) を入れる .
4. タイトル画面を編集して, Title ボタンを押す .
5. Slide ボタンを押すと, PDF のスライドが作成される .  
注) `ketpic.sty` などが TeX に組み込まれていない場合  
`ketpicstyle` フォルダの中身を作業フォルダ内にコピーする

## 3. 図の表示



図 1: french